

## カブトガニ

### カブトガニ

生物の中には恐竜のように過去に大いに繁栄し、現在は絶滅してしまったもの、シーラカンスのよう絶滅したと思われていたのに、深い海に生き残っていたものなどいろいろです。また、著しい変化をして進化するものもあれば、大昔から形や生活をほとんど変化させないものもあります。岡山県の笠岡地方をはじめ瀬戸内海から九州にかけてみられるヘルメットのような形をしたカブトガニも最後の例です。

### カブトガニは 何の仲間

さて、カブトガニの体はどのような特徴があるのでしょうか。まず、かたがヘルメットのようなこうらを持っています。その背中側の真ん中に2対の目があります。また、しっぽのトゲが特徴的です。

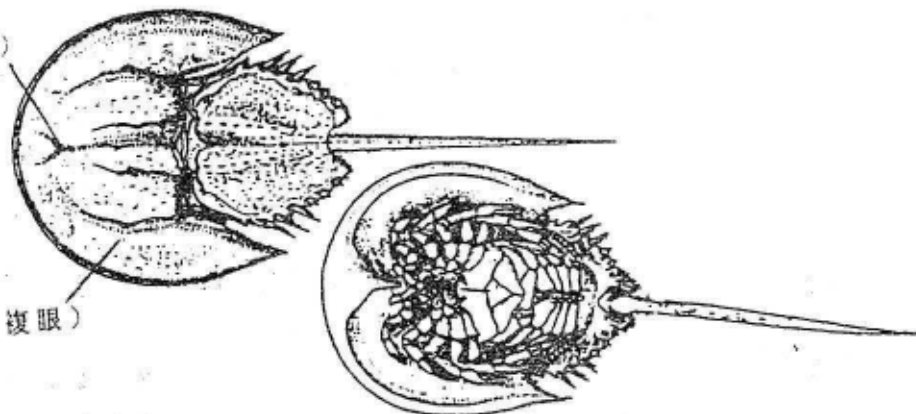
今度は腹側を見てみましょう。触角がなく、6対の足があります。

さて、この動物は名前こそ「カニ」ですがカニの仲間（甲かく類）ではなく、むしろクモやサソリに近いものです。甲かく類では触角を4本持っていますが、クモやカブトガニに触角がないことからそれが分かります。

なお、食物はゴカイや二枚貝などで、産まれてから15年くらいでおとなのカブトガニになり、寿命は25年くらいです。

目（単眼）

目（複眼）



カブトガニ（上は背側、下は腹側）

## 生きている化石

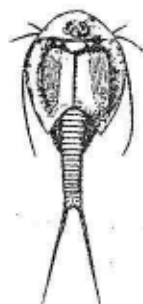
ところで、大昔から栄え、長い間あまり変化しないで生きている生物は「生きている化石」と呼ばれています。カブトガニは今から約2億年も前の海で栄えていましたが、現在では、日本や東アジアにいるカブトガニのほか、東南アジアにすむミナミカブトガニとマルオカブトガニ、北アメリカ東岸のアメリカカブトガニの4種類が生きているのみです。



現在のカブトガニの分布

## 田んぼの中にカブトガニ？

ところで、外形がカブトガニに似ている「カブトエビ」は甲かく類でむしろエビに近い仲間です。近畿地方などの水田に出現し、雑草を食べてくれるので地球環境にやさしい「生物農薬」としても注目されています。



(カブトエビ)

カブトガニの標本は4月29日から6月13日まで科学文化センター2階ロビーで展示しています。

また、カブトガニのほかに、恐竜化石や、生きている化石と呼ばれているオキナエビスという巻き貝やカイロウドウケツという海綿などもいっしょに展示しています。

(布村 昇)



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成5年5月1日